

## 【令和5年度 和泉市ジェンダー平等教育推進モデル校 取組み報告】

### 研究主題:一人ひとりを大切にする教育

#### ～「ジェンダー平等教育」に関する指導を通じて～

和泉市立和泉中学校

#### <はじめに>

本校は、「たくましく健やかな生徒」「美しい心の生徒」「たゆみなく学ぶ生徒」を教育目標に、「学力向上」「生徒指導」「学校文化」「生涯教育」を重点的に行っている。人権教育は、生徒指導の観点において「自尊感情の育成」と「たくましく健やかな生徒の育成」の実現に向けて行っており、令和4・5年度においては、「他者理解を深め、相手を思いやる心を育む」を目標に、各学年で段階的な教育実践を行った。

以下は2年間の本校の実践内容及び結果です。

#### <中学校におけるジェンダー平等教育の重要性>

一昨年行われた「LGBTの児童生徒の存在を認識した学校での取組み」という研修で、LGBTに関する学校内での取り扱いや配慮事項、教員の認識のありかたについて学んだ。

性的マイノリティーの生徒は、自身の性指向や性自認、悩みをアウティングされる、性自認や性指向を理由にいじめにあう、自分らしさを受け入れてもらえず不登校になるなど、精神的苦痛を受けるケースが多く、学校現場としても配慮が必要な事案として扱うべきであり、いかなることであってもいじめを許さない意識を教員全員が持つことが求められている。

具体的には、「どの授業・どの教室・どの学年にも当事者がいる」という認識を教員全員が持つこと、教員研修や授業の実施、教員がポジティブに話題に出す等など、教員の意識を変えていくことがあげられた。また、「性同一性障害に係る児童生徒に対する学校の支援の事例 2015年 文部科学省通知」の内容より、以下の事項に関して支援の事例があげられている。

	学校における支援の事例
服装	自認する性別の服装・衣服や、体操着の着用を認める。
髪型	標準より長い髪型を一定の範囲で認める(戸籍上男性)。
更衣室	保健室・多目的トイレ等の利用を認める。
トイレ	職員トイレ・多目的トイレの利用を認める。
呼称の工夫	校内文書(通知表を含む。)を児童生徒が希望する呼称で記す。 自認する性別として名簿上扱う。
授業	体育又は保健体育において別メニューを設定する。

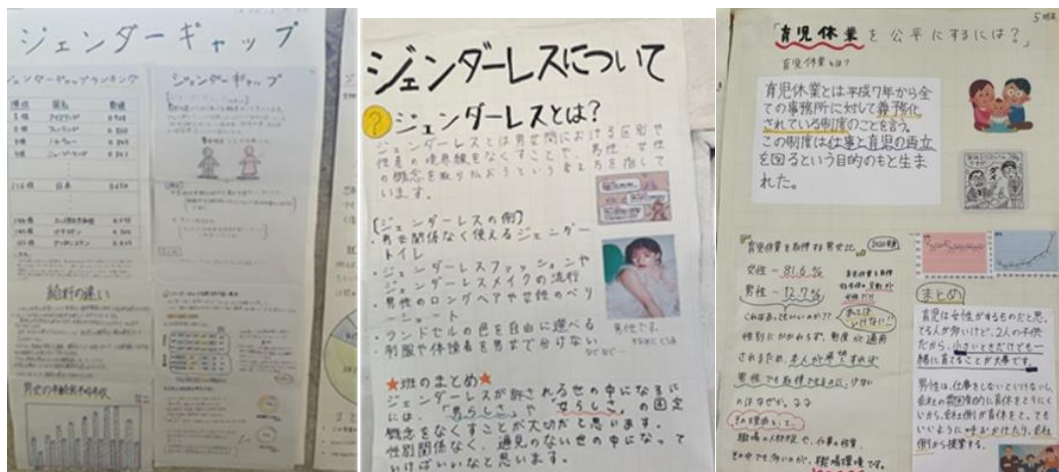
水泳	上半身が隠れる水着の着用を認める(戸籍上男性)。 補習として別日に実施、又はレポート提出で代替する。
運動部の活動	自認する性別に係る活動への参加を認める。
修学旅行等	1人部屋の使用を認める。入浴時間をずらす。

また、最も重要なのは、生徒一人ひとりが大切にされ、安心でき、互いに受け入れられる環境をつくることだと感じた。しかし、それは性的マイノリティーやジェンダー教育に限ったことではなく、その他の学校教育においても重要なことであると感じている。

### <昨年度(令和4年度)の実践>

第2学年で授業実践を行った。

「男女のちがいを」について班ごとに調べ学習を行い、その違いはあっていいものか、また、なぜそう思ったのかを壁新聞にまとめ、発表する。実際に制作された壁新聞が以下のものである。



### <生徒の振り返りシートより>

「男女の賃金差や職業の差を見ると、昔にあった価値観が今も変わっていないことが原因なのかと思った。あと、そういう条例や法律がなかなかできないこと。1つの男女差がまた新たな男女差を生んでいることもあると思うから、やっぱり根本から価値観を変えるべきだと思った。」

「女性は職種が違うから男性との賃金の差が大きい。賃金の差を減らすためには女性の頑張りが正當に評価される社会にならないといけないと思った。」

「社会の中にはこんなにも男女差があるのだとわかった。だが社会はこの男女差を無くすつもりがあるのだろうか。一人ひとりの思いが必要であり、政府を動かしてみたいと思いました。」などの感想がよせられ、ジェンダー平等実現に向けての問題意識は高まった。

### <今年度(令和5年度)の実践>

第1学年から第3学年まで、段階的に学べるよう、授業実践を行った。

第1学年と第2学年では、LGBTQ+に関する基礎的な内容でプリント学習を行った。また、第1学年の生徒を対象として、当事者の方による講演会を実施した。

第3学年では、昨年度行った「社会の中にある男女のちがひ」について班で調べ学習を行い、学級の代表は全校生徒へ向けて発表した。



3年生の生徒が作成したスライドには、ジェンダーギャップ指数に関する世界のランキングを取り上げたり、ジェンダーレストイレの問題や、学校の中の制服の対応などを取り上げたり、また、男女のマークの色について問題提起したりする班もあった。

### <生徒の振り返りより>

「私は、男性でも女性だと、女性でも男性だと感じる人がいるのは知っていました。でも、実際にその人に会ったのは今日が初めてです。私は一歩さんの話を通して、やっぱり人には言いにくい、言えなくて、それを我慢して隠して、無理をしている人が多いのではないかと思いました。もしかしたら、この学校、私の友だちの中にも、そういうことを感じている人がいるかもしれないです。でも、もし私に言ってくれた時は、「そうなんや。あなたはあなたでいいと思うよ。」と言いたいです。」

「世の中には、性のあり方がたくさんあると分かりました。一歩さんのお話を聞いて改めてきちんと自分の性のことについて考えることができました。現在、もしかしたら友だちが性のことで悩んでいるかもしれないし、これから悩んでいる人に出会うかもしれないと思います。このような時は相手を守れたらと思います。また、その人のことを「おかしいな」と思うことは違うと分かりました。」

(実際に使用されたスライド)

## 有害な男らしさ・女らしさ

「男性は(女性は)こうあるべき」という古い価値観



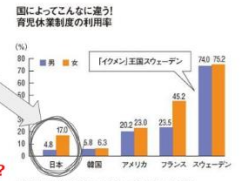
### 【日本だけでなく世界の規模から考えてみよう】

「表から分かること」

- 日本の男女差えくい!
- スウェーデンは ほぼ差がない。

「結論」

- スウェーデンのような国を見習うべきでは?



国	利用률 (%)
日本	4.1
韓国	6.3
アメリカ	23.0
フランス	25.6
スウェーデン	74.0

### ①水泳の水着について

みなさん水泳の授業の時、なにか違和感を覚えませんか?

なぜ男性は上裸が当たり前なんだと思ったことはないでしょうか???

いまだに男子のラッシュガードの許可は半分にも達していません。なので、今後改善していかなければいけない課題です。



状況	割合 (%)
許可	23
許可しない	45




### 男女での給与の差

#### 男女の賃金格差があるのは知っていますか?

皆さんに問題です。A男さんとB子さんは同じ職場同じ学歴、同じ資格、同じ仕事、仕事量、労働時間が一緒だとしたら

もらえる給料はA男さんとB子さんどちらのほうが高くなるのか?



年	男性賃金 (円)	女性賃金 (円)	格差率 (%)
2010	250,000	180,000	72.0
2019	280,000	200,000	71.4

**正解** A男さんとB子さんの給料は変わらない。

**解説** 原因としては、専業主婦の人の割合が高く、管理職についていない女性も多いから。

### 3. 具体的な方法

- 1. 色について
  - 男女平等するために虹色
  - 男女の壁を取り払った白
  - どちらも男女どちらかに付度がないようになっている



### 男女役割問題

「男らしさ」「女らしさ」といった観念を基に男女の役割を固定的に考えることです。例えば皆さんで育児をする人と聞いて女の人を思い浮かべませんか?

#### その男女による固定概念が問題なのです



最高学年として、わかりやすい説明をしようという姿勢はもちろん、それぞれの班が思ったこと・感じたことを簡潔にまとめ、全校生徒へ伝えることができた。

<生徒の振り返りより>

「自分は「育児は女性か男性、どちらを思い浮かべますか」と聞かれたときに自分は女性を思い浮かべたから、そういうことが先入観なんだなと思った。まずはその先入観をなくそうと思いました。」

「女性は家事、男性は仕事など、その概念を壊してそれぞれの生き方を主張できたらいいなと思いました。」

「日本はジェンダーの問題について考えてはいるけど行動に移していないことが多くて、女性も男性も働いている人がかわいそうだなと思った。」

「今、自分の身の周りではちょっとはジェンダー平等になっていると思っていたが、実際は世界的に見たら課題がたくさん残っていることがわかった。自分が今まで普通に感じていたことが、実はジェンダーの問題になっていたりして、もっと視野を広げて物事をいろんな観点から見るのが大切だと思った。既成概念にとらわれずに、『あ、ああいう生き方もいいな』と、人との付き合い方を改めていく。」

## <実践結果と課題>

2年間の研究を経て、子どもたちの意識は確実に変わっていった。まず、“ジェンダー”という言葉を知ることから、社会の中にある問題、さらに自分にできることを考えることができたと感じている。

特に効果的だったものは、やはり“自分たちで調べて、考えをまとめる”ということであった。教師から与えられるものではなく、まず主題を自ら生み出すところから始めることで、より主体的になれ、自分の意見をそのまま仲間に表現することができた。<中学校におけるジェンダー平等教育の重要性>でも述べたように、生徒一人ひとりが、互いに意見を聞き合うことができる空間があるからこそ、実現できた教材であった。

課題としては、3年生の発表の内容を「ジェンダー平等をめざすために自分たちができること」というテーマにし、作成させると、より身近に感じることができたのではないかと感じた。また、男女の賃金格差など、もっと深めることができた問題もあると感じた。

次年度以降も、3学年の段階的なカリキュラムは継続して行う予定であり、その際にも今回の成果と反省を踏まえて授業を展開していきたい。